

氏名	三島 亜紀子
学位の種類	博士(学術)
学位記番号	第 6419 号
授与報告番号	乙第 2849 号
学位授与年月日	平成 29 年 3 月 21 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 2 項該当者
学位論文名	ソーシャルワークの専門職化の過程に関する研究 ーソーシャルワーク理論とグローバル定義にみる知の変容ー
論文審査委員	主査 教授 岡田 進一 副査 教授 所 道彦 副査 教授 大西 次郎

## 論文内容の要旨

申請論文は、2部構成となっており、序章ならびに第1章から第5章の1部と、第6章から第9章および終章の2部から構成されている。序章では、研究の背景ならびに問題の所在についての整理が行われ、明確な研究目的の設定がなされている。第1章では、ソーシャルワーク実践の「科学化」という考え方や進化論的歴史観からソーシャルワーク理論を分析し、米国における初期のソーシャルワーク理論の特質を明確にしている。第2章では、ソーシャルワーク理論に大きな影響を及ぼした心理学理論、マルクス理論、システム理論などを取り上げ、それらの理論がソーシャルワーク理論の形成にどのような影響を与えたのかの分析を行っている。第3章では、「反専門職主義」などの影響を受けて、さまざまな学会等におけるソーシャルワーク理論の「科学化」への批判や専門職に対するサービス利用者の不信感を受けて、ソーシャルワーク理論が、どのような変化を遂げたのかを分析し、また、その当時のソーシャルワーク理論の課題を整理している。第4章では、ソーシャルワーク理論と実践との関係性を明らかにするため、英国における児童福祉領域の理論や児童虐待のガイドラインを取り上げ、それらが英国のソーシャルワーク実践にどのような影響を与えたのかを明らかにしている。第5章では、エビデンス・ベースド・アプローチという文脈の中で、「科学化」の批判を受けたソーシャルワーク理論において、どのようなプロセスで新たな概念の理論化が行われたのかの分析を行っている。第6章では、エンパワメント・ストレングス・アプローチやナラティブ・アプローチにおける概念の理論化に関する分析を行い、そして、エンパワメント・ストレングス・アプローチやナラティブ・アプローチが、ソーシャルワーク実践に対して、どのような影響を及ぼしたのかの分析を行っている。第7章では、エンパワメント・ストレングス・アプローチの基本的な考え方を整理し、その考え方がソーシャルワーク実践に与えた影響についての考察を行っている。第8章では、これまでの理論的な展開を踏まえ、国際会議において新たに採択されたソーシャルワーク専門職の定義を取り上げ、新定義における人々の多様性の意味と多様性尊重の視点から派生する民族固有性の尊重の意味を分析している。第9章では、新定義における新たな概念である「社会的結束」に関する分析を行っている。そして、新定義における「社会的結束」に関するさまざまな問題点を提起している。終章では、上記の研究成果を踏まえ、いくつかの課題が提示されている。その課題として、ソーシャルワークにおける専門的な知識と「地域・民族固有の知」との間で矛盾が生じた場合、どのような解決方法が考えられるのかや、具体的な実践に国際的な定義をどのように応用していくことができるのかについてなどがあげられている。

## 論文審査の結果の要旨

申請論文では、英米におけるソーシャルワーク理論を中心として、それらの理論の歴史的な展開を精緻に分析し、また、ソーシャルワーク理論や理論に関連する論争がソーシャルワーク実践にどのような影響を及ぼしてきたのかを文献を用いて明らかにしている。特に、「科学化」「反専門職主義」「ポストモダン」といった観点からソーシャルワーク理論を分析し、これらの理論がソーシャルワーク実践にどのような影響を与えたのかを明らかにしている。そして、本論文は、ソーシャルワーク実践の理論化がソーシャルワークの専門職化と密接に関連していることを明らかにし、ソーシャルワーク実践における新たな概念の理論化の過程と専門職化の過程との関連性についての緻密な分析を行っている。これらの知見は、社会福祉学における重要な知見であり、実践的な含意を含んでおり、高く評価すべき内容である。本審査委員会は、慎重に審査を行った結果、申請論文が博士(学術)の授与に値するものであると認めた。